

第45回日本血液事業学会総会開催のご挨拶

総会長　日本赤十字社北海道ブロック血液センター　紀　野　修　一

コロナ禍の中、第45回日本血液事業学会総会が開催されます。当初予定していた札幌コンベンションセンターが新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場となったため、ロイトン札幌に会場を変更しての開催です。予定に比べ会場が狭くなることをおわびいたします。

学会開催の大きな意義は、皆さんに行ってきました研究成果を多くの人たちに聞いてもらい、様々なディスカッションをし、次の研究に繋げることです。この文章を書いている9月中旬には、新型コロナウイルス感染の第5波は収まりつつありますが、このまま済むとは思えません。この様な状況下では、全員が集合しての総会開催は難しく、ハイブリッド形式(現地+オンライン)とオンデマンド形式を取り入れて行うことになりました。Face to Faceとは行きませんが、皆さんの発表と討論の場を確保し、総会の使命を果たせるよう最善を尽くす予定です。

今回のテーマは「ニューノーマルにおける血液事業—改善から改革・変革へ—」です。思い起こせば2014年、故田所憲治本部長は、血液事業の財政立て直しのために、広域事業体制と血液事業情報システムを生かす「事業の見直しと改善」を打ち出しました。強力なリーダーシップのもとに各地域での様々な改善活動が実を結び、財政赤字は解消されました。さあこれから新しい血液事業を創っていくこうとしている矢先に、新型コロナウイルス感染が世界中に拡がりました。新型コロナウイルス感染の収束はいまだ目途が立たない中、われわれはコロナと共に存しながら、血液事業を持続・発展させていかなければなりません。そのためには、献血者の善意を、血液製剤を必要としている方々に安定的に届けるための新たな方策・システムを構築することが求められています。血液事業運営の風土となった「改善活動」を礎として、現状の基盤を維持しつつ変えていく「改革」はもとより、ある部分では現状の基盤を100%ガラリと変えてしまうような「変革」が必要かも知れません。本総会では、コロナ禍においても持続的に発展できる血液事業の確立を皆で知恵を出し合い考えて行きましょう。

今回の総会では、特別企画、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題口演、WEB会員交見会は、ライブのハイブリッド形式で行います。一般演題ポスターと教育講演は、オンデマンド配信とし、学会期間終了後も視聴可能にします。

コロナ禍を横目に見つつ、できる限りの準備をしてきましたが、初めての試みが多く、会員各位にはご迷惑をおかけするかと思いますが、ご容赦ください。

コロナの収束を祈りつつ、2021年晚秋の札幌で皆さんにお目にかかる 것을楽しみにしています。